

- 問1 平安時代、藤原氏が天皇の外戚（母方の親戚）として権力を握った政治体制において、天皇が幼少のときにその代わりに務めた役職と、天皇が成人した後にその補佐を執り行った役職の組み合わせとして正しいものを選びなさい。（2020年 徳島公立入試 類似）
1. 摂政と関白
 2. 将軍と執権
 3. 太政大臣と右大臣
 4. 上皇と法皇
- 問2 平安時代中期、遣唐使の廃止などを背景に日本の風土に合った国風文化が栄えました。この時期にかな文字を用いて執筆され、主人公である光源氏の生涯を描いた、世界最古の長編小説とも評される文学作品を選びなさい。（2024年 島根公立入試 類似）
1. 源氏物語
 2. 枕草子
 3. 更級日記
 4. 竹取物語
- 問3 11世紀後半、白河天皇が位を譲って上皇（太上天皇）となった後も、宮中（院）において政治の実権を握った政治形態を何と呼びますか。最も適切な語句を選びなさい。（2025年 埼玉県公立入試 類似）
1. 院政
 2. 摂関政治
 3. 執権政治
 4. 建武の新政
- 問4 11世紀後半、東北地方で起きた前九年合戦や後三年合戦などの戦乱を鎮圧した源義家が、東日本における武士の棟梁（指導者）としての地位を固めることができた歴史的背景として、最も適切な説明を選びなさい。（2017年 徳島公立入試 類似）
1. 朝廷から戦功に対する恩賞が出ない中、義家が私財を投じて部下に報いたことで、武士たちとの間に強い主従関係が築かれたため。
 2. 平氏一門を西日本へ追い払い、京都の朝廷から東日本全域の支配権を正式に認められたため。
 3. 鎌倉に幕府を開き、御家人に対して領地の保証を行う「御恩と奉公」の仕組みを確立したため。
 4. 承久の乱において上皇方の軍勢を破り、朝廷に対する武士の優位性を決定づけたため。
- 問5 平安時代初期、最澄が唐から伝えた仏教の宗派と、その修行の拠点となった場所の組み合わせとして正しいものを次の中から選びなさい。（2024年 愛媛公立入試 類似）
1. 天台宗 — 比叡山延暦寺
 2. 真言宗 — 高野山金剛峯寺
 3. 天台宗 — 高野山金剛峯寺
 4. 真言宗 — 比叡山延暦寺
- 問6 11世紀後半に白河天皇が始めた、天皇が位を譲って上皇となった後も引き続き政治の実権を握る政治形態を何といいますか。藤原氏が摂政や関白として権力を振るった「摂関政治」を抑える意図で行われたものを選択してください。（2024年 岐阜公立入試 類似）
1. 院政
 2. 執権政治
 3. 親政
 4. 幕政
- 問7 平安時代の遺跡から出土する青磁（陶磁器）は、当時の文学作品の中にも、貴族の生活を彩る貴重な品物として描写されることがあります。このように、中国の大陸から輸入された品物を取り入れつつも、日本の風土や好みに合わせた独自文化が発達した時代の文化を何と呼びますか。（2024年 栃木公立入試 類似）
1. 飛鳥文化
 2. 天平文化
 3. 弘仁・伴野文化
 4. 国風文化
- 問8 奈良時代には『万葉集』に見られるように、漢字の音や訓を日本語の表記にあてはめた「万葉仮名」が使われていましたが、平安時代になると、漢字を簡略化するなどして日本独自の文字が作られました。この文字が普及したことで、人々の感情や生活を細やかに表現できるようになった日本独自の文化を何と呼びますか。（2019年 長野県公立入試 類似）
1. 国風文化
 2. 飛鳥文化
 3. 天平文化
 4. 弘仁・貞観文化
- 問9 菅原道真が遣唐使の停止を建議したことによって、その後の平安貴族の生活や文化にどのような影響を与えましたか。最も適切な説明を選びなさい。（2023年 北海道公立入試 類似）
1. 大陸の文化を日本の風土や好みに合わせて消化・吸収した、日本独自の国風文化が発達した。
 2. 中国の律令制度をそのまま導入することで、天皇を中心とする中央集権的な政治体制が完成した。
 3. 唐の先進的な土木技術を導入したことにより、全国で大規模な開墾が進み、班田収授の法が厳格に運用された。
 4. 日本独自の文字である「かな文字」の使用が禁止され、すべての公文書を漢文で記す習慣が定着した。
- 問10 平安時代末期に成立した平氏政権の特色について、その背景や仕組みを説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2020年 神奈川県公立入試 類似）
1. 後白河上皇に仕える武士勢力の中で台頭し、武士として初めて太政大臣となった平清盛が、一門で官職を独占して政治の実権を握った。
 2. 朝廷から征夷大將軍に任命された源頼朝が、鎌倉に幕府を開いて全国の武士を御家人として統制する仕組みを整えた。
 3. 後醍醐天皇による建武の新政に反旗を翻した足利尊氏が、京都に幕府を開き、守護の権限を強めることで全国を支配した。
 4. 有力な戦国大名であった織田信長が、足利義昭を追放して室町幕府を滅ぼし、実力によって天下統一を進める新たな支配体制を築いた。
- 問11 1156年に発生した保元の乱は、平安時代末期の政治状況を大きく変えるきっかけとなりました。この政変の直接的な原因となった、当時の朝廷内における対立関係を説明したものとして、最も適切なものを選びなさい。（2022年 島根公立入試 類似）
1. 院政の実権をめぐる、上皇と天皇による主導権争い
 2. 将軍の跡継ぎ問題をきっかけとし、守護大名同士の勢力争い
 3. 武家政権の樹立を目指す武士団による、朝廷への反乱
 4. 摂関政治を維持しようとする藤原氏と、新興武士層との対立
- 問12 藤原道長が「この世をばわが世とぞ思う 望月の 欠けたること なしと思えば」という歌を詠んだ時期の、藤原氏の権力の背景について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2026年 愛媛公立入試 類似）
1. 自らの娘を次々と天皇の后に入れ、その子を天皇に即位させることで、天皇の母方の祖父（外祖父）として強い影響力を持った。
 2. 地方の有力な武士団を武力で制圧し、全国の公領や荘園から徴収する年貢を独占することで、経済的な基盤を確立した。
 3. 遣唐使や遣唐使を積極的に派遣して大陸の最新の政治制度を取り入れ、天皇を中心とする律令国家体制を再構築した。
 4. 天皇の位を退いて上皇となり、天皇に代わって院の庁で政治を行う「院政」の仕組みを確立することで実権を維持した。
- 問13 平安時代末期、平氏の領袖である平清盛が、現在の神戸港にあたる大輪田泊を大規模に修築した主な目的として最も適切なものはどれですか。（2017年 大阪公立入試 類似）
1. 中国の宋との貿易を拡大させ、経済的な基盤を強化するため
 2. 東国から送られてくる年貢米を効率よく保管し、朝廷に献上するため
 3. 元寇によるモンゴル軍の襲来に備え、瀬戸内海の防衛を固めるため
 4. キリスト教の布教を許可し、南蛮貿易を促進するための拠点とするため

答え合わせ・解説

問1	答え 1 摂政と関白	平安時代中期、藤原氏は自分の娘を天皇の妃にし、生まれた子を次の天皇に立てることで、天皇の母方の祖父や叔父として政治の実権を握りました。このとき、天皇がまだ幼い時期には「摂政」として、成人してからは「関白」として政務を独占する形態を摂関政治と呼びます。藤原道長やその子の頼通の時代に、この政治体制は全盛期を迎えました。
問2	答え 1 源氏物語	平安時代には、漢字を日本風に崩した「かな文字」が普及したことで、貴族の女性らによる優れた文学作品が多く誕生しました。一条天皇の後である彰子に仕えた紫式部は、当時の貴族社会の人間模様を精密に描いた『源氏物語』を執筆しました。これは全54帖からなる壮大な長編小説であり、日本を代表する古典文学として知られています。
問3	答え 1 院政	1086年に白河上皇が始めた政治の仕組みです。それまで藤原氏が摂政や関白として権力を振るっていた「摂関政治」を抑え、天皇の父や祖父である上皇が自らの子孫に皇位を継がせながら政治を主導しました。この仕組みは、のちに武士である平清盛が台頭する12世紀後半まで、政治の大きな流れとなりました。
問4	答え 1 朝廷から戦功に対する恩賞が出ない中、義家が私財を投じて部下に報いたことで、武士たちとの間に強い主従関係が築かれたため。	源義家は東北の戦乱を平定しましたが、朝廷はこれを「私的な争い」とみなして恩賞を与えませんでした。これに対し義家は、自らの私有地などを部下に分け与えることで、東日本の武士たちと強固な信頼関係を構築しました。この絆が、後の源頼朝による鎌倉幕府成立を支える基盤となりました。
問5	答え 1 天台宗 — 比叡山延暦寺	最澄は平安時代の初めに遣唐使として中国（唐）に渡り、帰国後に天台宗を伝えました。彼は滋賀県と京都府の境に位置する比叡山に延暦寺を建立し、そこを修行の拠点としました。同時期に空海によって開かれた真言宗（高野山金剛峯寺）と混同しやすいため、人物・宗派・寺院の名称を正しく一致させることが重要です。
問6	答え 1 院政	白河天皇は、幼い子に天皇の位を譲って自らは上皇（じょうこう）となり、独自の役所を設けて政治を行いました。これにより、天皇の外戚（母方の親戚）として権力を握っていた藤原氏の影響力を排除し、自分の子孫に確実に皇位を継承させていく基盤を固めました。
問7	答え 4 国風文化	894年の遣唐使廃止後、日本は大陸の文化をただ模倣するだけでなく、それらを日本の生活や好みに合わせて消化・吸収しました。これを国風文化と呼びます。紫式部の『源氏物語』は、当時の輸入陶磁器である青磁などの豪華な生活用品や、寝殿造の住宅を舞台とした、この文化の最盛期を代表する作品です。
問8	答え 1 国風文化	遣唐使の廃止などを背景に、日本の風土や生活に合わせた独自の文化が発展しました。これを国風文化と呼びます。この時代、万葉仮名を崩したり一部を取ったりすることで、日本独自の文字である「かな文字」が生まれ、和歌や物語などの文学が発展する大きな要因となりました。
問9	答え 1 大陸の文化を日本の風土や好みに合わせて消化・吸収した、日本独自の国風文化が発達した。	遣唐使の停止により、大陸からの直接的な文化の流入が制限されました。これにより、それまでに取り入れた唐風の文化を、日本の気候や日本人の感性に合うように作り変える動きが強まりました。その結果、かな文字の使用や、寝殿造、大和絵、和歌の隆盛といった「国風文化」が花開くことになりました。
問10	答え 1 後白河上皇に仕える武士勢力の中で台頭し、武士として初めて太政大臣となった平清盛が、一門で官職を独占して政治の実権を握った。	平氏政権は、上皇の執務を支える軍勢力として成長した平清盛が、貴族社会の仕組みを利用して権力を手中に収めた点に特徴があります。清盛は武士として初めて太政大臣となり、一族で多くの知行国や官職を占めることで、伝統的な貴族政治の延長線上において武士による初の政権を樹立しました。
問11	答え 1 院政の実権をめぐる、上皇と天皇による主導権争い	平安時代末期、鳥羽法皇の死後、崇徳上皇と後白河天皇の間で「院政」の実権をめぐる対立が激化しました。この皇位継承や朝廷の主導権をめぐる争いに、藤原氏内部の対立や源氏・平氏などの武士が巻き込まれる形で武力衝突に至ったのが保元の乱です。選挙制にある「将軍の跡継ぎ問題」は室町時代の応仁の乱などの特徴であり、この時期の状況とは異なります。
問12	答え 1 自らの娘を次々と天皇の后に入れ、その子を天皇に即位させることで、天皇の母方の祖父（外祖父）として強い影響力を持った。	藤原道長は、4人の娘を次々と天皇の后（中宮や女御）にしました。その結果、3人の天皇の「外祖父（母方の祖父）」となり、摂政として圧倒的な権力を手にしました。この全盛期の満足感を歌ったのが「望月の歌」です。
問13	答え 1 中国の宋との貿易を拡大させ、経済的な基盤を強化するため	平清盛は武士として初めて太政大臣という最高位に就くとともに、瀬戸内海の制海権を掌握しました。当時の中国王朝である宋との「日宋貿易」を積極的に進めるため、大型船が停泊できるよう大輪田泊（現在の兵庫県神戸市）を修築し、莫大な富を得ることで平氏の全盛期を築きました。